

平成19年度4月1日訓示

平成19年4月2日

みなさん、おはようございます。

まず、永年にわたり公務員として勤務され、全国町村会自治
功勞の表彰を受けられたみなさん、おめでとうございませう。
心から敬意と感謝を表する次第でございませう。

すでに、主幹職にある職員は、本町における管理職であり、
スタッフ制のなかでは、課長を助けながら、課をまとめる
という大切な役割がございませう。

どうか、これからも健康に留意されまして、町の発展のため
に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げるところ
でございませう。

また、今日から、私たちの新しい仲間となられた新採用の
みなさん、おめでとうございませう。

心から歓迎を申し上げますとともにお祝いを申し上げます。
昨今の大変厳しい経済情勢の中で、皆さんは自ら公務員の道
を選ばれたわけでありませう。

したがいまして、皆さんには多くの町民みなさんの期待が注がれます。どうか、公務員としての自覚を持って、今日の気持ち、初心を忘れずに、一日も早く職場に慣れ、仕事を覚えて町民みなさんの幸せのために頑張っていたいただきたいとお願いをいたします。

いよいよ本日から平成19年度が始まったわけでありませんが、これまでの「助役制」から「副町長制」という新しい体制に変わりました。今日から「助役」ではなく、「副町長」となります。また、出納室も「助役兼掌」から「会計管理者」という新たな体制となり、機能強化を図ったところでございます。更にまた、小規模でございますが人事異動も行ないました。特に、町民課長には昨年の「包括支援センター」に加え、今回は、社会福祉協議会の事務局長という仕事も担当していただくことになりました。どうか、事務等に支障のないように、また、新たな環境で、十二分に持てる力を発揮されまして、町民福祉の向上のためによりしくお願いを申し上げる次第でございます。

さて、私は、3月の議会で、「今日の礼文町があるのは、過去において私達の先人が、町の未来に向けて行なった偉大なる努力のおかげであり、今、そのことに感謝しながら、私達もまた、次の世代のために限りない努力を続けていかなければならない。」ということを申し上げました。

まさしく、今日の礼文町の礎は、明治以来、脈々とつながってきた開拓の歴史であり、先人のたゆまない努力の上に今の私達があるものと考えています。

特に、50年前の香深村、船泊村の合併による礼文村の誕生、そして礼文町への橋渡しは、この礼文島にひとつの行政体を作り、ふるさとを発展させようという先人の温かい知恵を感じているところでございます。

そのおかげで、礼文町は一島一郡一町の中で、今日の繁栄を築いてきたと考えております。

しかし、人口の減少や少子高齢時代の到来とあわせ、地方交付税制度の改革が行われるなど、自治体経営、地域経営が非常に難しい時代となっています。

今、盛んに夕張市の財政破綻のことが報じられています。多くの職員が退職し、行政機構も縮小されました。市民の負担は増え、逆にサービスは後退することになります。しかし、最も大変なのは、そうした状況の中で、353億円の借金を18年で返済しなければならないということでございます。まさに、夕張市のつらく厳しい年が始まったのであります。そして、これが夕張市だけに限ったことではないということなのでございます。

こうした時代背景の中で、私は、安定した財政基盤が必要であり、現在のわが町の行政サービスをこれ以上後退しないようにするために、市町村合併問題に取り組まなければならないと考えております。そして、そのことを町民のみなさんと話し合い、意識を共有し、議論を尽くして礼文町の将来を豊かな方向に決めなくてはならないと思っています。

合併新法の期間も残り3年しかありません。したがって、今年の仕事の中心は「市町村合併問題への対応」にシフトしていくことになるものと考えていますので、職員みなさんのご理解とご協力をお願い申し上げる次第でございます。

また、もうひとつは「温泉開発」でございまして、今年度は、いよいよ温泉掘削を開始します。

去る3月19日に掘削許可がおりまして、5月の連休後から掘り始める考えであります。秋には、温かい礼文島の温泉が湧き出ると大きな期待をしているところでございます。

並行して、プロジェクトや推進会議等での議論をしながら温泉施設の基本計画を完成させたいと思っております。

もちろん、最終的に湧き出た温泉の温度やお湯の量、成分などにより設備関係などの変更がでることは前々から話しているとおりでございますし、今年は、土地の取得や補助金などの折衝、起債の申請なども必要になってまいります。

そういう意味から言いましても今年は、職員みなさんにとりましては非常に多忙な一年になるものと思っております。

しかし一方では、依然として待った無しの行政改革が求められておりまして、平成21年度まで「行政改革集中プラン」により、引き続き、皆さんにも厳しい思いをさせることとなりますが、更に行政改革を進めていかなければなりません。

また、今年度の各課における事務事業につきましても、予算査定のときに、みなさんから、色々とお聞きいたしましたので、個々の内容について詳しくは申し上げませんが、それぞれ計画に沿って滞りのないようにとり進めていただきたい。特に、今年度から始まる計画、あるいは、今年度に将来に向けた計画をつくらなければならないものもあるとうかがっていますので、十分にハウ・レン・ソウを行ないながら進めていただきたいと思います。

更に、水産と観光の振興を急がねばならないというふうに考えます。議会でも議論となりましたが、水産未利用資源の活用など漁業の振興対策について、漁業者や漁業協同組合との協議の場が必要と考えますので、お互いにアイデアを出しながら、地域が活気づくようにしなければならない。また、観光振興につきましても、行ってみたい観光地として礼文島の人気は一番であるというアンケート結果があります。低迷している観光に必要なものは何かを行政としても観光関連の人達とよく話し合い、実行することが必要です。

また、先日の「能登半島地震」にみられるように、災害はある日突然襲ってまいりますので、高齢社会におけるわが町の「安心・安全」を確保しなければなりません。

教育においても、保健医療福祉や建設などの分野においても同様でございます。是非ともこういったことを話し合う機会をたくさん作っていただきたいと思います。こうしたことを通しながら、私は、夢と希望にあふれた「元気のある礼文町」にするため、皆さんの先頭にたって頑張っております。

そこで、私は、昨年も申し上げましたが、職員のみなさんには「町民のみなさんから注がれる行政への期待と厳しさを肌で感じ、町民に信頼される役場職員」であってほしいということ、みなさんに期待をしたいと思います。そのため、

①「公務員であるということを自覚し、町民の目線で考え仕事に取り組む職員」であってほしい

また、

②「それぞれの担当業務に精通し説明責任を果たせる職員」として町づくりの推進役を積極的に担ってほしいということでもあります。

更にまた、「経営」という考え方を持つ必要があることもお話ししてきました。「経営」とは、簡単にいいますと前例ばかりにとらわれずに「工夫する」「改革する」ということでもあります。もちろん勉強もしなくてはなりません。

要は、「公務員であっても工夫したり、頑張ってみるというように自発的な行動をすること」、更に「具体的な改革を実際に行なってみること」が大事なことだというふうに思います。

私は、公務員として、どう生きるかではなく、ふるさとに生きる人間としてどれだけ頑張ることができるか、熱意がどれだけあるのかであろうと考えています。

今、全国的には景気の回復基調にあると言われておりますが、まだまだその実感は程遠いものがあります。

町の財政も苦しい、厳しい状況にありますし、昨年4月から新しい給与制度も導入されまして、職階制という厳格な給与制度であることから、なかなか上級職にあがることができないという現実があります。

しかし、だからと言って、職員の皆さんが萎縮してはならないと思います。

私は、このような現実を踏まえ、本町の職員構成ように職階制のために、結果として職員が不利益をこうむることとなる場合は、これを是正していきたいと考えています。

さらに、先日の議会の一般質問にありましたように、「早期退職制度」と言いますか「勸奨退職制度」の見直しも早急に行ってまいります。

職員みなさんの元気な顔、元気な声で、町が元気になり、浜に活気を取り戻すことができると考えています。

私は、職員みなさんに、その大きな原動力になっていただきたいのであります。

終わりになりますが、冒頭に申し上げましたように、「今日の礼文町があるのは、過去において私達の先人が、町の未来に向けて行なった偉大なる努力のあったおかげであり、今、そのことに感謝しながら、私達もまた、次の世代のために、今、何をしなければならないのだろうか。」

私達は、常に、このことを心の中に置きながら、わが町の将来への責任を果たすため、力の限り邁進していきたいと考えております。

職員みなさんにもこのことを意識していただき、更なるご支援ご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。新しい年度にあたっての訓示といたします。